＜福島県教育長賞＞

「税金が広げる可能性」

伊達市立伊達中学校　３年　佐藤　栞

税金と聞いてまず初めに思い浮かべるのは消費税だ。中学生の私ですら払うことがあるこの税は一年間に約２３兆４千億円も集まるらしい。想像もできないような額のお金が全国民が納めることで集まるのだから驚きだ。この集まったお金は、公共サービスや社会の資本として使われているようだ。いつも使っている無償の教科書、医療費等の負担、身の回りにいる先生や市役所の人たちのお給料。そして上下水道や道路、信号の整備、さらに食糧生産の支援など、生きていく上で必要不可欠なライフラインにもたくさん関わっていて挙げればきりがない。その中でも、教育費の負担が一番身近なものかなと思う。小学校から中学校までの９年間が義務教育期間となっており、ほとんど無償で教育を受けることができる。高校や大学への進学を考える年になって、この制度のありがたさを感じている。人としての土台が出来上がっていく時期を学校で過ごせる。大人に勉強はもちろんのこと、して良いことと悪いことの判断、社会の基本的なルールを教えてもらえる。いい制度だなと思うと同時に教育の大切さ感じた。

教育が重視されるようになったのはいつからだっただろうか。男女の差別なく、教育を受けられるようになったのはいつからだっただろう。今の日本の状況はとても恵まれていると思う。世界を見れば、教育を受けられていない人はたくさんいる。学校がない子供達もたくさんいる。私たちが当たり前に感じている教育を心から望んでいる子供たちがいるのだ。教育を受けるという権利は、誰にでも平等に保障されなければならない。子供達に教育を受けさせるということは未来を切り開くということだ。今の子供が新しい世界を創っていく。その時、一番怖いのは無知だ。何も知らなければ、何もできない。それどころか間違った方向に走っていってしまうかもしれない。何事もまずは知るところから始まる。知識を得ることで考えたり、行動に移すことができる。その、知識を得る場をみんなに確実に作ってあげてほしい。日本にも経済的

な事情で進学できない人がいる。進学を望んだ人が、お金のことを気にしなくて良い社会になってほしい。高校、そして大学と授業料がどんどん上がっていく。だからこそ支援の充実が必要であると思った。税金はみんなから集めたお金なのだから、みんなに平等に幸せと安心を届けてほしい。

税金を何に使うか。このことは私たちにも関係がある。使い方一つで色々な可能性があるからだ。社会問題を解決する力を、この地球を守れる力を秘めているかもしれない。社会はもっと生きやすくできるのではないだろうか。誰にでも手を差しのべられる社会は実現できるのではないだろうか。たくさんの未来を秘めた税金の使い道は、これからの社会を担っていく私たち、若い世代こそが真剣に考えていくべきことだと思った。